

平成28年12月9日(金)

学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議(第2回)

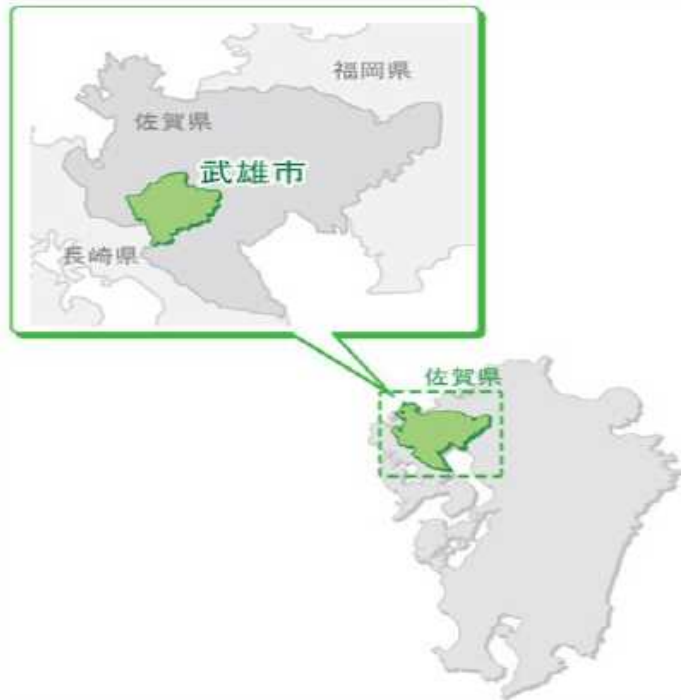
武雄市のICT環境整備より

武雄市副教育長

浅井雅司

武雄市について

■佐賀県武雄市



人口：49,894人

小学校数：11校（分校3校）

児童数：2,824名

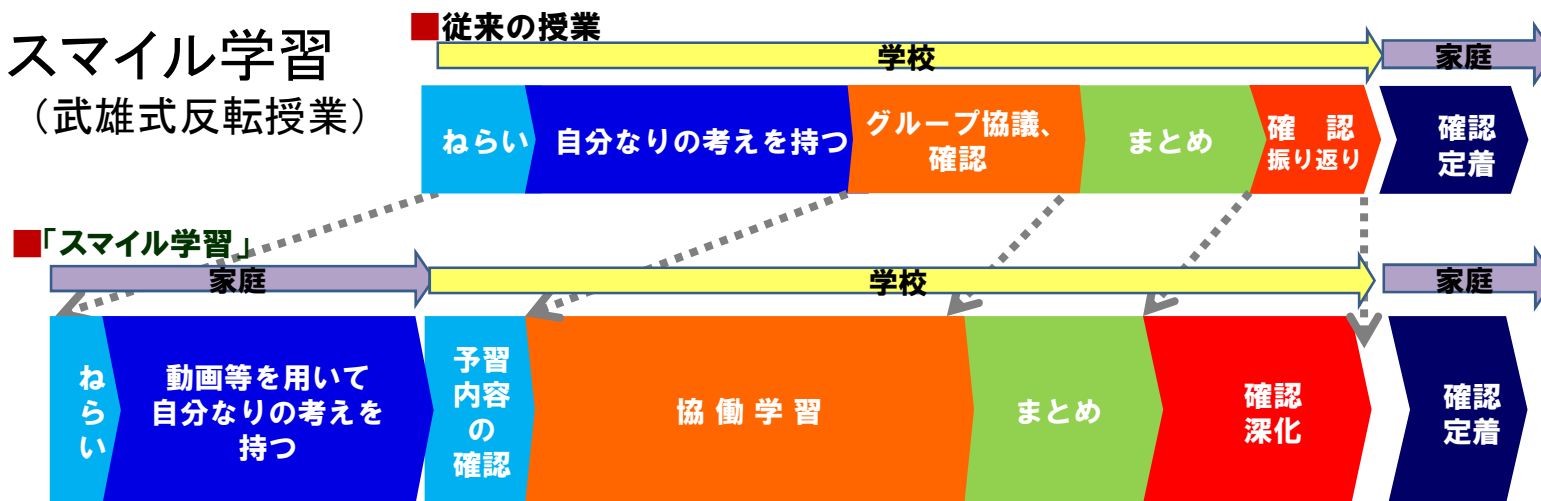
中学校数：5校 ※県立の高校併設型中学校あり

生徒数：1,305名（平成28年5月現在）



武雄市のICT教育

- スマイル学習
(武雄式反転授業)



- 1人1台のタブレットを活用した学習

- 日常的な教科指導(情報共有、問題演習等)
- 朝の学習で活用(「花まるタイム」等)
- スーパー食育スクール
- 英会話オンライン学習
- プログラミング教育
- 不登校児童生徒への支援

武雄市のICT環境整備①

- 電子黒板の整備
 - H21年度より計画的に整備し、現在普通教室への整備率105%
(H28.12現在 小学校11校に133台 中学校5校に61台)
 - 実物投影機(書画カメラ)を合わせて導入
- タブレット端末の整備
 - 指定校への導入
 - ✓ H22年度、小学校2校に276台(4年生以上に1人1台)
 - 全市立小中学校へ**1人1台**の整備
 - ✓ H26年度、小学校全11校(3,153台)
 - ✓ H27年度、中学校全5校(1,550台)
 - 授業等での活用レベルに応じた計画的な更新
 - ✓ H28年度、小学5,6年生用の更新(1,000台)

武雄市のICT環境整備②

- インターネット接続
 - H25年度に普通教室の校内LAN、校内無線LAN整備
- 教職員用校務PCの整備
 - H21年度に校務用PCの教員1人1台、H22年度に校内支援システムを整備
 - H28年度に校務用PCを更新
- ICT支援員の配置
 - H22年度より計画的に配置し、H28.4からは小中学校全16校に各1人配置

H28年度の調達より

- H28年度の調達
 - 小学5, 6年生用タブレット端末の更新
 - ✓ 10.1インチ、メモリ2GB、ストレージ32GB
 - 教職員用校務PCの更新
 - ✓ 一部PCのみメモリ増設し、基本OSのみを更新
- 議論のポイント
 - 授業等において、タブレットをどう活用するか
 - 校務用PCで、どのレベルが必要なのか
 - 新学習指導要領の実施等の国の動向はどうか

市町の現状

- 人材不足
 - 「詳しい人」は国以上に限定的
 - 担当の人数も限られる
- 情報不足
 - どの程度の性能があれば、何ができるのか
 - 何をすれば、子どもにどのような効果が見えるのか
 - 国での議論は機器選定には直結しない
 - 教育用としてどのような設定をすべきか
 - Ex. 機能制限はどこまでか、セキュリティはどう担保するか
- その他
 - 地域性(地域内事業者の有無、受注機会拡大への配慮等)

調達課題

- 選択肢が狭い
 - 教育向けは限定的
 - 一般向け製品から選択せざるを得ないことも多い
 - Ex. 取扱いの利便性(重量、形状等)、駆動時間の確保が重要
 - 一方、動画編集や並行的な操作ができる必要はない
- 授業等での活用レベルに応じた選択が困難
 - 導入初期は基本的な機能で十分ではないか
 - 教員はOJTも含めた研修で、授業での活用レベルが向上



- ✓ 結果として高コストの調達となる危険性が高い
 - 教育委員会として、「無難」な仕様と選定
 - 事業者として、高付加価値製品の提案

課題解決に向けて

- 学校教育が求める機能の整理が必要
 - 発達段階別
 - ICT環境の整備段階(授業での活用レベル)別
- ※自治体規模(学校規模)など、調達のスケーラ等への留意

そのために

- 整備指針が必要
 - 教育委員会:何を整備すればよいか明確に
 - 事業者:どの製品を提供すればよいか明確に

そして

- 安定した需要と供給の確立 ⇒ 調達の低廉化へ